

第14回チアダンス日本オープン選手権大会 開催

第14回チアダンス日本オープン選手権大会が、10月18日に国立代々木競技場第二体育館で開催された。

チアダンス競技には「チアダンス」と「アーバンチアダンス」の2種目がある。

「チアダンス」は、片足で回転するピルエット、足を高く振り上げるハイキック、ジャンプや前後・左右の開脚姿勢などが規定要素となり、ポンポンを効果的に使用しながらチアリーダースピリッツや元気よさを表現する競技である。

一方「アーバンチアダンス」は、ブレーキング ダンスフリーズ（肩・腕・頭を使った倒立姿勢）やダンスリフトなどが規定要素となり、タンブリングなどのアクロバットな動きを取り入れながら力強さを表現する競技である。

両種目には、人数別に「ラージグループス（8～16名）」「スモールグループス（3～7名）」「ダブルス（2名）」の3部門があり、それぞれをジュニア1（小学生）、ジュニア2（中学生）、シニア（高校生以上）の年代別で競う。

■ラージグループス総合優勝：SPARK ANGELS（東京都）

今年は海外チームも参加し、合計43チームが美しくも白熱した演技を披露した。

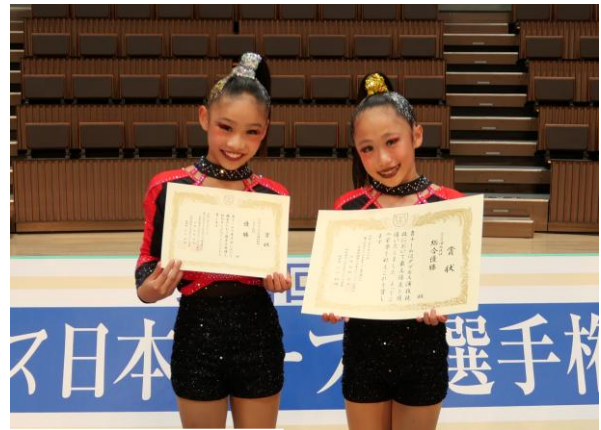
ラージグループスで最高得点を獲得したのは、SPARK ANGELS（チアダンス演技競技ジュニア1部門）。小学校3～5年生で編成されたチームが、第12回大会から見事3連覇を果たした。

スピードとキレのあるターン、高さのあるジャンプ、調和のとれたフォーメーションと同調性に、会場から大きな拍手が送られた。

SPARK ANGELSはチアダンス ダブルス演技競技でもジュニア1部門で総合優勝・準優勝を果たしており、その実力の高さがうかがえる。

キャプテンは、「回転の軸やタイミング、腕の形を揃えることを意識して練習してきました。成果が出せて嬉しいです。応援ありがとうございました」と喜びを語った。





ダブルス総合優勝 SPARK ANGELS・A

■スモールグループス総合優勝：STYLEY（東京都）

スモールグループスで最高得点を獲得したのは、STYLEY（チアダンス スモールグループス演技競技ジュニア2部門）。大会直前に怪我が発生し、当初の予定より1名減らしての演技となったが、フォーメーションなどを丁寧に調整し、昨年に続き部門を制した。

キャプテンは、「フォーメーションを変えて、怪我をしてしまった選手の気持ちも背負って頑張りました。大会に出場できる機会が年に2～3回しかないなので、この大会に向けて積み重ねてきた練習が評価されて嬉しいです」と笑顔で語った。



■チアフルダンス

今大会では、チアダンス・アーバンチアダンスに加え「チアフルダンス」も開催された。

「チアフルダンス」は、コロナ渦において接触や発声を伴わずに競技が行えるよう、チアリーディング大会で新設された種目であり、2023年からは本大会でのみ継続して実施されている。

ジュニア部門を制したのは女子聖学院中学校・A（東京都）で、2大会連続優勝。大田区立東調布中学校（東京都）は惜しくも2点差で準優勝となった。

シニア部門を制したのは目白大学同短期大学部（東京都）。目白大は大会設置当初から出場しており、4大会連続優勝を果たした。

キャプテンは、「4回連続の出場でプレッシャーもあったが、1位をいただけてホッとしている。チアリーディングの中で、ダンスだけを突き詰める期間はあまり多くないが、この大会を目指す中で楽しく練習できた。今年は海外の選手とも交流でき、新たな気持ちで大会に臨めて楽しかった」と語った。



チアフルダンス演技競技 ジュニア部門 優勝
女子聖学院中学校・A



チアフルダンス演技競技 シニア部門 優勝
目白大学同短期大学部

■エキシビション

エキシビションでは、3歳から83歳まで幅広い年代の選手が集結した。

最年長チームの鷹ロコ・ネットワーク大楽（だいがく）・三鷹POPSは、東京都三鷹市を中心に活動するチームで、今大会には61～83歳の10名のメンバーで出場。三鷹POPSは55歳以上の選手を募集対象としており、週1回・1時間程度の練習で、年に数回大会や地域イベントで演技を披露している。

今回最年長の選手は3ヶ月前に入部したばかり。「孫が始めたから一緒にやってみようと思った」とチアダンスを始めたきっかけを語った。

本番前には、「なかなかうまくできないこともありますが、みんなで一緒に踊れるのがとても楽しい。今日は精一杯頑張ります」と緊張した面持ちで話してくれた。



■海外チームの出場

今大会には、インドネシア、カンボジア、チャイニーズ・タイペイから計7チームが出場した。大会前日には目白大学にて事前練習会が行われ、各国の選手が演技を披露しあうなど、日本チームとの交流の場となった。



インドネシアからは、チアダンス ダブルスおよびアーバンチアダンス ダブルス演技競技に2チームが出場した。チアダンス ダブルスでは丁寧で安定した演技を披露し、ジュニア1海外部門で優勝を飾った。選手たちは、「この大会に向けて1ヶ月半練習してきました。ここに来られてとても誇らしく、本当にうれしいです。ありがとう日本! また来年会いましょう」と喜びと再会への期待を語った。



チャイニーズ・タイペイからは、アーバンチアダンス演技競技、チアダンス ダブルス演技競技、アーバンチアダンス ダブルス演技競技に計4チームが出場した。

アーバンチアダンス演技競技に出場したチームは社会人中心で構成されており、仕事の合間に練習時間を確保することが難しく、チームをまとめることに苦労したという。出場選手のひとり、ダブルス演技競技チームのコーチを兼任しており、事前練習会では熱心に指導を行いながら、自身も力強いパフォーマンスを披露していた。



カンボジアからは、1チームがアーバンチアダンス ダブルス演技競技に出場した。

チームのコーチは10年前、チアリーディングを学ぶため、日本チアリーディング協会主催のサマーキャンプにカンボジア代表として参加し、神奈川県チアリーディング大会でエキシビション演技を披露した経験をもつ。今大会では、サマーキャンプで指導を担当したスタッフと再会し、「今後も若い

スタッフに指導を引き継いでいけるよう頑張っている」語った。

スポーツを通じた国際交流が生まれ、つながりつづけていることを実感する場面となった。



ダンスには多様なスタイルがあるが、チアダンス・アーバンチアダンス・チアフルダンスは、様々なダンススタイルやフォーメーションを取り入れながら、全体の美しい調和を重視し、応援をルーツとするスポーツとして元気よさや力強さを表現する競技である。

今後も、多くの方が競技スポーツ・生涯スポーツとして、チアリーディング・チアダンスに取り組み、幅広く活躍されることを期待したい。



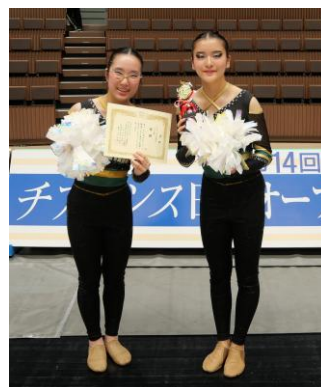
チアダンス演技競技 ジュニア 2 部門 優勝
CHEER DANCE TEAM SHINIES



チアダンス演技競技 ジュニア 1 部門 準優勝
チアダンスクラス Cosmos



チアダンス演技競技 ジュニア 2 部門 準優勝
細田学園中学校



チアダンス ダブルス演技競技 ジュニア 2 部門 優勝
神戸ストークスチアスクール



島根スサノオマジック
チアダンス ダブルス演技競技
ジュニア 1 部門 第 3 位・ジュニア 2 部門 準優勝・シニア部門 優勝
エキシビション出場

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。
Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.